



しではら りゆう
楨原には、龍にまつわる
 しぜん おお
自然が多くあるんじゃ！



りゆう あたま
龍の頭

まぐわぶち
①「馬鋤淵」

かっぱ す
ガタロ(河童)が住むと
 つた
伝えられる

りゆう どう
龍の洞

うしお
②「牛落とし」

いわ うえ すべ いわ あいだ
岩の上を滑り岩の間を
 なが やつま たつたがわ
流れる八曲がりの竜田川



りゆう お
龍の尾

なぞ きやがん
③「謎の巨岩」

かわ まんなか おお いわ
川の真中に大きな岩が
 た
立つ
 たか やく
高さ：約6.1m
 しゆうい やく
周囲：約10m



りゆう ま たいほく
龍が巻く大木

りゆうじんすぎ
④「龍神杉」

じゆ れい ねん
樹 齢：200～300年
 たか やく
高 さ：約30.5m
 みきしゆうい やく
幹周囲：約4m



なまえ ゆらい
名前の由来を
 し
知ってるかい？

しで はら
楨原

しで き ち おお は
 楨の木がこの地に多く生えていたため。

もとさんじょうぐちえき
元山上口駅

しゅげんどう もと えんのおずぬ おおみねさん さんじょうがだけ
 修験道の祖となる役小角が大峰山(山上ヶ嶽)を
 ひら まえ せんこうじ もと さんじょう しゅぎょう しではら
 開く前に千光寺(元の山上)で修行され、楨原が
 その入り口となっていたため。



はっこうもと しではら じ ち かい
発行元：楨原自治会

いっせんねん いじょうつづ だんとうぎょうじ
一千年以上続く伝統行事

へぐりちよう
平群町

しではら かん じょう つな か
楨原 勸請綱掛け

おお なわ み つく
大しめ縄を皆んなで作り、
 たつ た がわ わた
竜田川に渡して、
 みな しあわ ねが
皆さまの幸せを願います



こんな事してるんじゃ！



①3本の綱を1本に撚り、雄綱27m、雌綱12mの綱を作る。

②綱を丸め、人の上を転がして厄を払い、一年の幸せを願う。



③薬師堂に奉納し、綱の作成を神様に報告する。

④竜田川の勸請に綱を掛ける。



⑥残ったわらを燃やして、とんどをする。



いつから始まったの？

勸請綱掛けは奈良・平安時代（西暦800年頃～1200年頃）に遡り、古代信仰の一つと思われ、東寺（京都）にある百合文書の中に「梶原の辻祭り」として記述されていることから、今から約1,000年以上前に始まったと言えます。

何のために始めたの？

勸請は神を祭る所、聖なる所を意味し、村の入り口にある所が多く、お地蔵さんを祭ったり、川の入りにしめ縄を掛けています。梶原の場合、勸請に綱（一種の大きなしめ縄）を張り、村の中に悪霊や厄病（伝染病）等が入り込まないように、また、村の人々の身体健全、五穀豊穡、子孫繁栄を祈願したものです。梶原の綱を掛けている場所が瀧にもなっているので、龍神信仰と合わさっているようです。



龍神？

瀧には龍神様が住んでいると信じられていて、水のかみさま神様として風水害より作物を守り、村人を守ってもらう存在です。また、龍神様は金勝寺の縁起と深いつながりがあります。その昔、このかんにょうに住む龍神様が、白髪の老人に化身して行基菩薩をこの地に迎えて金勝寺を建てられたと伝えられています。

龍神様の住む龍穴は、大正の末頃まで残っていましたが、鉄道を通すために無くなりました。横には薬師如来が祭られています。

綱にはどんな特徴があるの？

大和には現在でもかんにょう綱掛けが行われている地域は多く残っていますが、綱の作り方、長さ、太さ、足の形やその有無など、それぞれ皆違っています。梶原のかんにょう綱は、太さや長さなど規模が大きく、古い形式が保たれています。雄綱、雌綱の2本を作り、雄綱には龍の2本の足や男性のシンボルも付けられています。

みんなで守っていきましょうね！

以前、綱掛けの神事を雨が降ったために中止したところ、その年には疫病が流行ったとの言い伝えで、その後は雨が降っても雪が降っても綱掛けは中止したことがありません。科学で探求し、解き明かしていく時代でもありますが、心のやさしさや安らぎは、自然を崇め、人とふれあうところから始まるのかもしれない。一千年以上、私たちの祖先が守り通してきた素朴な伝統行事を誇りに思い、今後も梶原に住む私たちが力を合わせて綱を作ることで、人と人をつなぎ合わせる行事として、末永く受け継いでいきたいと思っています。なお、行事は、令和3年度から1月第2日曜日に実施するようになりました。